



# みどりの風

平成29年10月号 在籍児童数482名

## 学校教育目標

- 自ら考えのびる子
- 思いやりのある子
- 進んで体をきたえる子

## 支えられて成長する子ども

校長 吉野 高男

2学期が始まって早3週間がたちました。残暑の日々から日一日と秋の気配が深まりつつあります。この原稿を書いている今、校庭からは、運動会の練習に取り組む子ども達の元気な声が聞こえてきます。今年の運動会も澁漑とした篠っこの姿が見られることと今からとても楽しみです。

さて、運動会などにふさわしい「スポーツの秋」到来ですが、その秋に先んじるかのように日本スポーツ界のビッグニュースが私達の耳に飛び込んできました。東洋大学陸上部の桐生祥秀選手が100mで日本人として初めて9秒台の記録を出したニュースはまだ、耳新しいところです。日本人が100mを9秒台で走るなどというのは夢のような話でしたが、桐生選手がそれを見事に実現してくれました。記録達成までのその道のりが平坦でなかったことは容易に想像できます。桐生選手は、高校生の時の大会で10秒01を出してから、日本人として初めて9秒台を狙える選手として注目と期待を一身に集めてきました。その重圧感たるや一人の若者にはとても過酷な状況だったろうと思われれます。そして、今年の6月の日本選手権では、ライバル達に破れて4位に沈み、世界選手権の出場を逃したのは、印象深い光景でした。その後の桐生選手の失意・重圧そして肉体の痛みなど、本人にはかわからない苦しみだったことでしょう。その苦しみに打ち勝つての快挙であり素晴らしい記録です。失意の中にある時、父やコーチの言葉から「僕が周りの人にどれだけ支えられているのか気づかされた」ところから自分自身と向かい合うことができるようになり、コーチへの信頼感を取り戻し、また、自分の意見も言えるようになるなど精神的に大きく成長できたようです。天才といわれる選手であっても支えられているという感覚が選手としての真価を発揮するには大切なのだと感じ入りました。

このことは、子ども達の成長においても同様のことが言えます。子ども自身が家族や仲間、教師から支えられているという安心感をもつことがとても大切です。とりわけ、子ども同士が相互に支え合うことは各々の成長に相互に作用します。子どもに自立を促すときに手を差し伸べるのは良くないと思われがちですが、「相互依存の上に自立は成り立ち、依存なき自立は孤立でしかない」と言われます。桐生選手は周囲に支えられていることに気付いたことで自立した選手として成長し、復活したのでしょうか。

本校では、子ども達が「互いに 聴き合い 支え合い 学び合う」関係を築けるよう日々の教育活動を進めています。互いに支え合う「篠っこ」の誰もが大きな成長を見せてくれることでしょう。そして、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、これからも子ども達を支えて頂き、見守って頂きますようお願いいたします。